

ちびっこうべ2022



「ちびっこうべ」は、神戸を中心とした子ども達の創造性を育むことを目的とした体験型プログラムです。

シェフ・建築家・デザイナーをはじめ、子どもたちがプロのクリエイターから知識や技術を学び、サポーターの大人たちと協力しながら、子どもだけのまちをつくり、運営します。お店づくりや様々な仕事・買い物など、社会の仕組みを楽しみながら学ぶことで、創造力を育みます。

2012年から2年に1度開催しており、コロナ禍でオンライン開催となった4回目を経て、5回目の開催となった2022年は、アートユニット「tupera tupera」と一緒にお祭りをつくるワークショップも開催。神戸をテーマにした被り物や衣装、御神輿などを制作し、ちびっこうべ2022のフィナーレを盛り上げました。

アーバニスト・イン・レジデンス in Nagata

国内外から招聘したアーバニストたちが長田区に滞在しながら調査・交流・発信活動を行う「アーバニスト・イン・レジデンス」事業を、全国の自治体で初めて実施しました。アーバニストとは、地域において単に住むだけでなく都市を主体的に楽しみながら生活している人のこと。



都市体験のデザインスタジオ for Citiesと共に

長田区は、市内9区の中で最も高齢化率や空き家率が高く、行政的な課題は多い区です。一方で、近年特にアーティストやクリエイターたちの創造的な活動によってまちの課題解決や魅力の創出につなげている例が多く見られ、すでに長田区にも多くの「アーバニスト」たちが関わっているとすることができます。こうした状況を踏まえ、創造性を発揮しながら住み・関わる方をさらに増やしていくため、アーバニストが実際にまちのフィールドに入り込みながら長田の特性・魅力のリサーチ、交流機会の創出、そして発信を行いました。

KOBE Re:Public Art Project

新しい形のパブリックアートを創出する試みとして、様々な分野で活動する23組のアーティストが神戸に広がる山、海、都市、下町など各地に滞在、それぞれにリサーチを行い、港湾地区を中心とした各エリアでさまざまなイベントを開催しました。

地域に新しい価値を生み出し、新たな神戸の魅力（周遊観光資源）を発掘することを目的としたプロジェクト。造形作品の展示や、パフォーマンス等を行うとともに、アーティストがリサーチした場所を周遊する仕掛けを施し、神戸の新たな魅力の発信を行いました。



外来生物展示センター



「外来生物展示センター」は、自治体初の外来生物問題に特化した常設の啓発拠点です。

外来生物は生物多様性に対する脅威となっており、さらに人体への健康被害や農作物への被害など様々な悪影響を及ぼしますが、実際に外来生物を直接見る機会やその問題を知る機会は多くありません。

外来生物展示センターでは、アカミカゲマヤオオクチバスなどの生きた外来生物、アライグマやヌートリアなどはく製を観察できるだけでなく、専門員による解説を聞き、パネルや映像を見て問題を知り、外来生物クイズなどの体験型学習により外来生物問題を深く学ぶことができます。

是非、外来生物展示センターにご来場ください。

神戸ネクストファーマー制度

一定期間の研修（合計100時間程度）を受けることで、100平方メートルから1,000平方メートル未満の小規模な農地を借りることができる「神戸ネクストファーマー制度」を創設しました。本制度により、働きながらも農業を始めることが可能になります。

農業に親しむ機会を広く設け、農村地域への移住に繋げていくとともに、多様な農業の担い手の一つとして育成することで、耕作放棄地の発生を防止、将来の本格就農にも繋げていきます。



神戸市公式 note

2022年9月、神戸市では、職員が記事を書きあげて、施策の裏側、そのストーリーや想いを伝える広報を開始しました。これまでの神戸市の広報には、施策をスタートした後の進捗状況が分かりにくい、分からないなどの課題がありました。施策のその後をしっかりと伝える、身近に感じられる文章や画像で情報を分かりやすく伝える、そのために「note」という媒体を使った広報を開始。分かりやすさ、親しみやすさ、スピード感を大切に、神戸の今をお伝えしています。

